

令和4年度生駒市男女共同参画審議会(第2回)

- 1 日時:令和5年2月15日(水) 午前10時から午前11時20分まで
- 2 場所:生駒市コミュニティセンター 4階402会議室
- 3 出席者:田間委員、藤次委員、緒方委員、城野委員、生駒委員、田中委員 (欠席者1名:柴田委員)
(事務局)小林市民部長、向田人権施策課長、男女共同参画プラザ 後藤所長、瀧川、真銅
- 4 議事内容
 - 1 事業案件
 - (1)令和4年度男女共同参画プラザ主催事業の進捗状況について
 - (2)令和5年度事業計画(案)について
 - (3)次期計画(生駒市男女共同参画行動計画(第4次))の策定について
 - 2 その他
- 5 傍聴者:なし

会長	それでは、議事の進行をさせていただきます。 まず、会議の公開と議事録の公開についてですが、市の方では、原則、会議と議事録は公開とされているようです。それでよろしいですね。
各委員	(異議なし)
会長	それでは、会議次第に沿って議事を進めます。 まず、案件「(1)令和4年度男女共同参画プラザ主催事業の進捗状況について」ですが、事務局から説明をお願いします。
事務局	(説明)
会長	ただ今の報告内容について、何かご意見やご質問があればお願いします。
委員	1点だけ、講座はリアルで開催されているのですか。
事務局	来週2月22日の「ischool(アイスクール)」だけはオンラインですが、それ以外はリアル開催です。 講師にご相談させていただいたところ、リアル開催で、参加者同士の交流がウィズコロナとなった今はできるので、やっていきたいとお話があったこと、また、ハイブリッドですと、リモート参加のかたの満足度が下がるというアンケート結果が出ているので、両方狙うというよりも、リアル開催ということになりました。
会長	他にいかがですか。ないですか。 それでは私から、ひとつは、いろいろな所と連携して行うというのはとてもいい工夫で、そもそも男女共同参画やジェンダー平等は全ての領域にわたるもので、理解がお互い深まるし、ジェンダー視点が入るセミナーなどが増えるということで、とてもいいなと思いました。 それともうひとつ、私は今年度から関わっているので、初めて教えていただくのですが、イベントの内容によって、すごく人気のあるものと応募が少なく残念だったものがあるのですが、その残念だったものの対策について、今後、どういうふう

生かしていく予定でしょうか。

事務局 4年度でしたら、資料1の1ページ目の2つ目にある「ファミリータイムマネジメント」というのが単体で実施し、こちらとしては一番伝えたいことですが、応募者が少なく残念な結果でした。この講座の開催が、時期的に7月24日で、夏休みに入って最初の日曜日であったため、ご家族で出かける機会も持たれたのかなと、日程を次回見直したいということをお話しています。また、全面的に家族の家事分担を考えようとストレートにお伝えしているのですが、そうすると、夫婦で参加しようという気が起こらなかつたり、男性の参加にハードルが高かつたりしたのかなと、もう少し、タイトルの考え方とか、講座を人気のあるマネー講座との連続講座にするなど検討して、今後につなげていきたいと考えています。

会長 ありがとうございます。日本で固定化されている、動かない大事な問題なので、ぜひそういう工夫で、次回は参加者がたくさんいるといいなと思います。

他の委員の皆様はよろしいですか。

それでは、続きまして案件「(2)令和5年度事業計画(案)について」、事務局から説明をお願いします。

事務局 (説明)

会長 ありがとうございます。それでは、この件について、ご意見とかご質問がありましたら、お願いします。よろしいですか。

(パープルリボンキャンペーンのライトアップで)ここが紫色になると面白いとか、大事なイベントなので、ぜひ進めていただきたいと思います。それ以外にも工夫してくださっているようなので、大丈夫かと思えます。

それではこの件はこれで終わらせていただいて、続きまして案件(3)、これが大きな案件になりますが、次期の生駒市男女共同参画行動計画(第4次)の策定について、事務局から、まず概要とスケジュールの説明をお願いします。

事務局 (説明)

会長 ありがとうございます。それではこの概要と全体のスケジュールについて、何かご質問とかお気づきの点はございませんか。

ないようでしたら、続いて、市民意識調査等について、説明をお願いします。

事務局 (説明)

会長 ご説明ありがとうございます。それでは、お気づきの点とかご質問はどうでしょうか。

委員 調査対象の市民3000人で、前回の調査の回答率が46.7%ということですが、何%以上なら有効にするとか、何か決まりがあるのでしょうか。

市民部長 今資料は持ち合わせていませんが、やはり少なすぎるとどうかという問題はあるので、基準はあります。

市の方も、総合計画とか、いろいろな場面で市民アンケートを実施しているので、

基準に合うように、その範囲の中で実施できればと思っています。

会 長 統計的には、私もすぐに数字は出てきませんが、例えば何万人だったら2千人位取っておいたらいいというのがありますね。要するにそれをクリアしているかどうかということですね。

委 員 回答率の基準があるのかどうか、分かりますか。

会 長 回答率自体にはなくて、その戻ってきたものが、統計学的に必要な数なのか、普通ある程度見積って、多めに出していると思います。他市でも回答率は下がってきていて、30%を切っている市町村もあるので。

委 員 (生駒市は)結構返ってきていると思います。

市民部長 基本は、生駒市ならば12万人程の人口の中で、対象者が何人いて、そのうち何人位の回答があればいいかという所から逆算して、何人にアンケートを送りましょうという計算になります。

生駒市では、毎年、総合計画の方でもアンケートを取っていて、その実績を見ても、結構回答していただけるような思いを持っています。

委 員 ありがとうございます。

会 長 委員ご指摘のとおりで、大事な所、一番の根幹に関わる所なので、実際に予算を組んで実施していくときに、配布数ですよね。回収数が下がるということを見積って、配布数を多めに積んでおかれたら一番安心ですよね、それだけ費用がかかってきますけれども。

それとの関連で私も一点あるのですが、他に委員の方々で何かありますか。

委 員 年齢層によってかなり回答率に差があって、そのあたりはどう判断されますか。

市民部長 年齢層についてはなかなかコントロールが難しい所で、例えば年齢で分ける部分については、内容によってそれがすべてと判断するのか、少ないから参考とするのか、そのあたりは結果を見ての話になってくると思います。

全体として、どの年齢層も含めてという場合は、先ほどおっしゃっていた全体の割合で有効であるなどの判断をすることになります。

会 長 自治体によっては、年齢層の若い人の回答が少なく、高齢者の回答に偏り過ぎるので、年齢層で按分してサンプリング数を割り当てているような所もあります。ただ、統計的に見るとそれはあまり良くないという人もいます。

今の委員のお話に関わって、デザインとして、市民意識調査は郵送調査になっているわけです。これを例えば、webも取り込むと若い人の回答が増えるかもしれないということで、他の市町村でも、アンケートを送るのは郵送だけれども、web回答をOKとしている所があります。QRコードを一人ひとりに紐づけて、二重回答はできないようにした上で、回答にweb方式を取り入れている所もあります。そういったことで、回収率を上げようと工夫されていると聞いたことがあります。

質問用紙自体をweb配信するのは、個別に送り届けないといけないので、技術

的にかなり難しいようで、そこは郵送のようですが、web調査的な部分をどれだけ取り入れるかといったことについて、何か考えていますか。

事務局 今のところ職員調査と中学生アンケートについては、グループウェアとweb方式での予算計上ですが、市民意識調査は、今いただいたご意見をふまえ、予算の範囲内で実施が可能であれば、web回答ができるような仕組みを仕様に加えて実施することを検討したいと思います。

会長 事業所調査も紙ですが、これはどうなんでしょうか。

事務局 市民意識調査と同じような形式で調査したいと思います。

会長 今の時代なので、web回答を取り入れることができれば、その方がいいかなと思います。

お手元の調査報告書には、標本誤差について多分記載されていないと思います。先ほど若い人の回答が少なすぎたらどうなるのかという趣旨のご質問がありましたが、あまりに少ないと統計的には意味をなさなくなります。例えば、ある質問に対する回答で、反対が40%あるというとき、その調査のサンプル数が数人とか、十数人だったりすると、40%プラスマイナス15%違うといった可能性を考えないといけなくなるわけです。そうすると、40%反対がいたと言っても、25%から55%までの間で、母集団に反対がいる可能性があるわけで、統計的な信頼性がある意味、なくなってくるという話になります。

そこで、標本誤差という表をつけておくと、結果を見たときに、それをチェックしながら気をつけて読むことができます。実数が少ないと、そういうことが起こってしまうので、報告書に標本誤差の表をつけた方がいいですけども、それだけではなくて、web回答を取り入れて、少ない層の回答率を上げる工夫もした方が良くと思います。

ただ、もし今回、中学生のweb調査ができれば、その子たちが5年後には高校生とか大きくなっていますから、今度は16歳以上の市民意識調査の対象となり、web回答してくれる下地ができていくので、そういう意味でも、中学生調査をweb方式で行うのはいいことです。自分が住んでいる市に何か参画しているという気がしてくると思うので、政治とか政策が近くなるし、意見表明権のひとつになるので、すごくいい教育効果もあるのではないかと思います。

委員 16歳から19歳がすごく少ないですね。選挙も若い人は行かないし、webにしたところで、わざわざ回答してくれるのかわからないですね。

委員 実際に紙で書いてとなると時間も要るし、送り返す必要もあるので面倒くさいと思います。webだと、自分の空いている時間に入れることができるので。

会長 紙よりはいいと思います。特に若い人には。

委員 今高校では選挙に行くよう啓発する授業がありますね。たとえば、生駒市内にある高校を通じて、生駒市のアンケート調査に回答してくださいと言ってもらうような方法はなんですか。高校生世代が一番少なくて、20代になると倍くらいになっています。

- 委員 10代は年齢層が半分(16歳～19歳)なので、少なくなります。発送数に対する回答率というか、年齢層でどれくらいの回答率になっているのか、世代別、性別などの属性で見えていくのがいいのではないのでしょうか。
- 会長 いいご意見をたくさんいただいているので、ぜひ生かしてください。
- 委員 中学生アンケートの設問については独自に作成するのか、それともある程度市民アンケートの設問項目と重複する形で作ることになるのか、どういう方向性を持っておられるのか、まずお聞きしたいと思います。
- 事務局 中学生アンケートは中学生アンケート用に作成し、ジェンダーに関することやデータDVを知っているかなど、中学生向けの調査項目にしたいと考えています。
- 委員 中学生の場合は、一人一台タブレット端末を持っているので、ホームルームの時間などに、グーグルアカウントを生徒全員が持っているので、それで入って行って答えることは可能で、中学生は一学年で1000人程度いますが、回答率は高くなると思います。
学校アンケートなどもグーグルフォームで90%以上回答が返ってきます。授業の中にタブレットが入っているので、そのあたりの操作には慣れていると思います。
- 会長 すごいですね。時代は変わっていると感じます。今ご質問のあったアンケート項目について、次回、4月の審議会で、案を出していただけるのでしょうか。それとも、私たちの方で、先に意見を出すのでしょうか。
- 事務局 まず、4月の審議会では、前回のアンケート項目も参考に審議会としてのご意見を先に出していただいて、業者の方に、審議会からのご意見と、前回のアンケート調査項目と、他の市町村でもされていますが、今の時代の流れを加味した新たなアンケート項目の3つを土台にアンケート調査項目案を作成してもらい、6月か7月に開催する審議会で、その調査項目案について検討いただきたいと考えています。
- 市民部長 このアンケートの使い方として、ひとつは前に実施したアンケート調査の結果が今どうなっているかという振り返りの役割もあるので、重要な部分については前回と同じ、又はそれに近い設問になってくると思います。もうひとつは、時代に合わせて、こういうことも聞いていこうという設問で、この先どうなったかを確認する必要がある、そういう項目を考えていきたいと思います。
- 事務局 あと、市民意識調査ですが、30問程度のアンケート項目のうち、男女共同参画に関する内容と、人権に関する内容が半々になっています。これは、人権施策の方が、5年ごとの意識調査を行うことになっており、人権に関するアンケートについては、平成30年度にも実施しています。男女共同参画行動計画を策定するための意識調査をする時に合わせて、人権に関する5年ごとの意識調査も一緒に行っているという経緯があって、設問が半々になっています。
こちらの審議会では、男女共同参画に関する項目の方を検討いただきたいということをつけ加えさせていただきます。

委員 自由回答欄はありますか。

事務局 あります。設問の中で、その他、括弧書きで具体的にという欄が選択肢の中にあつて、回答できるような項目があります。

会長 全体の最後に自由回答欄がありますね。皆さん、結構書かれています。
事務局から説明がありましたが、基本的に生駒市での経年変化を見るために一定の項目は継続、それから新しい時代に応じた課題で新規の質問があれば新たに加える、あとは、中学生アンケートでどのようなことを聞くか、市民意識調査と共通するものもありながら、もう少し工夫するということですね。
また、内閣府、奈良県(調査)との比較を行うために、それらと共通した設問をいくつか入れておくことは普通行っています。
10年に一度の大事な調査になるので、そういう観点から見ておいていただきたいと思います。
あと何か、次の審議会に向けて、聞いておいた方が良いというものがありますか。

委員 そもそもこの調査というのは、奈良県の女性の就業率は全国で最も低いと書かれていますが、女性の就業率を上げるために実施するのですか。一方、奈良県の女性の社長の数は一番多いという調査もあります。女性が自分自身をどう評価しているかという視点が全く欠けているような気がします。環境は整えても、もちろんいいと思いますが、女性自身の希望はどうなんだろうという、そういう視点での調査とは少し違う気がします。

会長 例えば、それを質問項目に生かすとしたら、どうなりますか。

委員 環境や表面的なスキル、知識、経験だけでなく、「自分ができているか」、「自分を大事に思っているか」など、自己評価に関わる項目を入れると根本的に変わっていくと思います。

市民部長 お手元のYou&Iプラン(第3次生駒市男女共同参画計画)の9ページに現計画の施策体系が載っています。今回のアンケート調査は、こういう施策を作っていくにあたって、DV防止、女性活躍や、最近であれば、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援法)なども踏まえ、市として、これからの10年でどのように取り組んでいくのかという計画を作ることが最終目的であり、そのための基礎として、現状を把握するために行うものです。
女性の意識に関する項目についても、この審議会でもとまれば、そういったものも入れていきたいと思います。

会長 委員のご意見は、非常に斬新な大事なもので、改めてこの施策体系を見てみたら、1-1-1の部分、一番ベースのところではないかと思います。

委員 やれる環境であっても、やれないからやっていないという感じがします。やれない理由が何なのか。(それを)どういうデザインで質問に加えていくのか、すごく難しいとは思いますが。
なぜ日本がそういう状況なのか、外国からは理解されない部分で、そこのベースを変えていかないと、就業率といっても低いままと思います。

女性の力で世界を変えていくという活動があります。女性ができることというのを、もっと女性自身が理解しない限り、結局何も変わらないですね。

会長

1980年代から90年代に開発途上国を中心にエンパワーメントというのが、女性のジェンダー平等の柱のひとつになっていました。ところが、日本では男女共同参画の政策はできたけれども、エンパワーメントが抜けたままで来ています。

自尊心をしっかり持つ、築き上げるというところがエンパワーメントの中核で、特に女性はエンパワーメントが施策の柱、ベースのはずですが、そこが先進国なのに遅れていると思います。そこをこの審議会で調査項目に入れることができれば、他市にない面白い項目になると思います。

委員

環境ばかり整っても、女性の意識が低いままだと何も変わらない。できる女性は日本から出ていくという現状があります。

会長

今日お持ち帰りいただく事業所アンケートにも、女性が生きていくときの環境の悪さというか、女性自身のしんどさみたいなものが出ているような気がしますので、見ていただいて、何かいい質問項目があればいいと思います。

また、中学生のweb調査でも、自尊心の核の所をどれだけ皆が持っているかがすごく大事な所で、そこにつながるような調査と施策にしたいものです。

そうすると、生駒市もみんな元気になるような気がします。

ありがとうございます。他に何かありますか。

委員

調査の結果の生のデータをオープンデータとして公開することはできますか。

事務局

調査結果は市のホームページで公表していくことになると思いますが、公表のしかたについては、庁内でいろいろな部署が調査をしていますので、確認し検討したいと思います。

会長

かなり前のことになりましたが、堺市から調査を請け負った時に、調査の貴重なデータをオープンデータにしてほしいと要望しました。基本的に、統計法という国の法律では、公的統計は公共のもので、オープンデータにして、市民が正しい判断ができるように公開すると規定されています。自治体の調査も公的統計なので、オープンデータにして、皆が使えるようにすればいいと思ったのですが、堺市では庁内の反対があっただめでした。だいぶ前ですから、今はどうかわかりませんが。

生駒市もぜひ検討いただいたら、市民に開かれた市としての先進的なイメージが出ていいかもしれません。

貴重なご意見をありがとうございます。

他に今日の段階で何か尋ねておきたいことはありませんか。

あるいは、4月の審議会の時までには、事務局に参考資料として準備してほしいものはないですか。

私の方から、中学生調査が今回初めてなので、資料3-1で他市事例をいくつかあげていただいています。それらの資料(アンケート項目)を事前に見て、意見を出せばいいなと思います。

事務局

久喜市と成田市はネット上で公表されていました。調べまして、メールで情報共有させていただきます。

会 長 事務局もお忙しいと思いますが、情報収集と共有をよろしくお願いします。
他にどうでしょうか。
先ほど言っておられた困難な問題を抱える女性への支援に関する法律ですが、
そういうものは調査項目に盛り込んでおこなうていいですか。つまり、次期計画策
定につながっていくものなので、そういう新しい状況とか法律に応じたものをある程
度入れておかないと、又途中で5年後の見直しの時に入れればいいという話です
が、見込まれるものがあれば、入れておいてもいいかもしれないですね。いろいろ
制限がある中でということなので、どうかなとは思いますが。

市民部長 実はその部分を計画の中に盛り込まないといけないかどうかということで、奈良
県の動きを調べてもらったのですが、奈良県の方では今その動きがない状況です。
今後計画を策定していくにあたっては、前回、女性活躍推進などを後で加えた形
を取らせてもらったので、これからの状況を見ながら考えていきたいと思いま
す。

会 長 奈良市の動きはどうですか。

事務局 奈良市は令和3年度に策定されているので、現時点ではまだ動きはない状況
です。

会 長 無理はしない方がいいかもしれませんが、できることはしておいた方が良いと思
います。
他にどうでしょうか。

委 員 回答率アップのためにweb回答者にプレゼントするというのはどうでしょう
か。回答率が目に見えてあがるんです。

委 員 たけまるくんの壁紙はどうですか。

会 長 自治体キャラクターのピンバッジを検討した自治体があって、意外と人気があ
ったらしいですが、単価が高くてやめたという事例があります。

委 員 人生の役に立つ電子書籍的なものはどうですか。

委 員 プレゼントをつけると、回答の質が下がってくると思います。

市民部長 ひとつ大きな問題は予算的に動けるかということです。例えば、回答して
もらった
らあげるとなると、プレゼントを贈る費用などもかかってきます。

委 員 最後まで回答したらダウンロードできるような形にするなど、工夫すれば
できる
と思います。

会 長 web回答はおまけつきという提案ですね。

委 員 アイデアの一つとしてどうでしょうか。

会 長 ありがとうございます。
 他にお気づきの点があれば何でも結構です。検討してみることが大事なので。

委 員 4月に審議会で検討するときは、事務局から何かたたき台のようなものがあって、その案をもとに意見を出すのか、それともまるっきりフラットな状態で皆で検討するということですか。

事務局 4月の段階では、できれば前回のアンケート項目を土台にして、追加した方がいいという項目を出していただければと考えています。
 中学生アンケートは前回実施していないので、(中学生アンケートを実施している)他市の情報を共有させていただきたいと思います。

委 員 分かりました。(令和5年度の)2回目までにそれをもとに案を作ってください、もう一度話し合うということですね。

会 長 審議会資料として、質問項目だけを一覧にしたようなリストがあればいいですね。
 平成25年度、30年度の調査項目で、選択肢までは必要ないですが、これは同じようにずっと聞いている設問、これは途中で入った設問といったような対照表みたいなものがあれば見やすいかもしれないですね。
 あとはどうでしょうか。よろしいでしょうか。
 それでは、案件を終わりたいと思います。
 次第の3 その他について、事務局から何かありますか。

事務局 (次回審議会の日程調整)

会 長 今日はこれで終了させていただきます。
 ご協力ありがとうございました。